

# 双塔



新潟教会 2014年9月

No. 316

## 説教

主任司祭 ラウール・バラデス

詣りました！

キリスト教放送局 FBC ニュース 396 号にこの話が乗っていた。

「説教は癒すのだ。イエス・キリストについて縷々教理を述べるのではなくて、今ここに生きて働く主イエス・キリストをご紹介することこそ説教の務めである。」

やはり、説教の間、個人的な意見や、流行の思想の解説、読書から得た知識などを話していても時間の無駄使いになると気がつかせてもらった。考えてみれば、私自身も先に述べたような説教を聞いても居眠りばかりして、あるいは頭の中で先の行事のことを思い浮かべてしまうのです。しかし、イエス・キリストに近づかせてくださったお話は時間が経っても忘れられません。

私は日本に来たばかりのとき、ある司教様はミサの説教の中で、ヘブライ人への手紙を引用して「あなたたちの本籍は天にある」と強くうたえてくれました。その一言で私が持っていた不安や日本の言葉と文化に対する遠慮というか抵抗なのかが解かれたような感じでした。

勿論、すぐに日本語が上手になった訳ではなくて、日本のいいところを全部分かったわけでもない。しかし、この国とこの国に旅する教会のことを少しでも前より尊敬し、好きになりました。

その説教は、キリストとその教会を受け入れるために力となって、私自身の考え方と生き方になった。

最近、もうメキシコにいても外国人のようです。確かに、信仰は押し付けられたものではなくて、キリストの言葉を聞くことによって始まり、育つものなのです。

私の今までの信仰生活の中で、いい説教を聞かせてくださった方、またその方々を育てたカトリック教会に感謝しています。その恩返しとして、私も他の人のために役に立ったらいいと願っています。

でも、それは簡単ではないと FBC ニュースは気がつかせてくださった。

「説教者がその存在をかけて心を尽くし愛を込め語りかける慰めの言葉。この慰めが福音のすべてを語っている。」

さらに

「説教者に求められるのは、憐れみのまなざしで人の傍らに立つということ。それはさらに言い換えるなら、キリストのまなざしだと思います。」

詣りました！

心を尽くして語り、愛を込めて説教台に立つように、慰めの言葉を述べ、キリストのまなざしをもって毎週、語ることが出来るようにお祈りください。そして、そういう風に説教しなかったとき、迷わずに声をかけてください。「神父さん、双塔9月号の巻頭言をお思い起こしてください。」と。

というのは、信徒は司祭を育つ、司祭も、一人の信者として心を改める必要があると感じています。



## そよかぜ便り



### ■ 聖母被昇天ミサ、菊地司教様 霊名の祝日、

そして祝賀会 ——— 8月15日(金) 10:00 ~ ———

聖母被昇天の祭日のミサに先立ち、設置されて60年のルルドの前で、菊地司教様司式で記念の祈りがささげられた。ミサの中では、堅信式が行われ、続いてインドネシアから一時帰国して、初聖体を受ける愛らしい二人の姿に、聖堂内がほころんだ。また、この日は司教様の霊名の祝日で、霊的花束が贈られた。

ミサ後は信徒会館前にテントが張られ、お父さん、お母さんたちが汗みずくでバーベキューを準備。

(心から感謝！！です) みんなで焼きたての野菜や肉を頬張り、子供たちはシャボン玉やスイカ割りなどを楽しんだ。

#### 【菊地司教様説教要旨】

「主がおっしゃったことは必ず実現すると信じた方は、なんと幸いですよ」（ルカ 1・45）。なぜマリアは幸いなのか。それは「神がおっしゃったことは必ず実現すると信じた」から。神の言葉、神の望みとは何か。それは、すべての人のいのちが十全に生かされること。しかし現実には、残念ながら必ずしもそうならないように見える。

開催中の「アジアユースデー」参加と韓国の殉教者の列福のため韓国を訪問中の教皇様は、使徒的勧告『福音の喜び』の中で、神の望みを知っている教会のあるべき姿として、貧しい人々、社会から排除されている人々のもとへ「出向いていく」教会であるべきだと教えている。社会的側面のみならず霊的生活においても、安定・安心の中に安住するのではなく、常にチャレンジが必要である。これは、本日の福音にあるマリアの賛歌（マグニフィカト）にうたわれていることにも通じるものである。ぜひ、マリアの賛歌を繰り返し思いめぐらしていただきたい。

### ■ 教会学校サマースクール（新潟教会に宿泊） ——— 8月16日(土) ~17日(日) ———

サマースクールは土曜の昼下がり、お祈りからスタート。小学生7名、中学生2名の計9名が参加。大きな怪我や熱中症もなく、二人の神父様と一緒に過ごす楽しいものとなった。子どもたちはゲームもスイカ割りも全力でいどみ、寝付く瞬間まで澁刺としていた。いつもミサのために来る教会での寝泊りがとても新鮮だった模様。一緒にお風呂に入ったり、寝る場所で少しもめたり、食事をしたり、いつもと違う友達を知る事ができたのではないだろうか。

日曜の朝、司教館の中庭を散歩してからミサに与り解散となった。支えてくださった神父様、食事の準備や片付けなど、ご協力頂いた方々に心から感謝。今回、村松教会からも一人参加があり、これからも交流が期待できる。来年のサマースクールを村松でやるという案も早くもでている。

#### 《2014年 9月の聖書クラス・信仰講座のご案内》



曜日	時間	内容	担当司祭
月曜日(不定期)	午前10:00~	キリスト教のQ&A	三崎神父
水曜日(毎週)	午前10:00~	聖書クラス	ラウール神父
木曜日(毎週)	午後19:30~	キリスト教入門	ラウール神父
第2土曜日	午前10:00~	第二バチカン公会議の学び	ラウール神父

※月曜日の「キリスト教のQ&A」は開催できない日がありますので、お問い合わせください。

※講座に参加される方は、担当司祭にご連絡ください。

国際カリタスの呼びかけによって行われる反貧困キャンペーンのロゴマーク。  
「私たちは一つの家族、すべての人に食糧を」  
(2013年12月10日~2015年5月)

